



## 廃棄物問題に取り組む米国企業、 新たな“地元”横浜で根付く

テラサイクルジャパンは、廃棄物を埋め立てたり焼却したりしないように、廃プラスチックを回収してリサイクルする事業に取り組む米国TerraCycle社の日本法人です。日本国内で事業を始めたのは2014年1月。当時は事業所が東京都港区にありましたが、外資系企業の受け入れに積極的な横浜市に移転しました。現在は、横浜市をはじめ地方自治体や地元企業、住民らと連携し、ごみ問題の解決を目指しています。



話し手：エリック・カワバタ TerraCycle アジア太平洋統括責任者



横浜市内に設置している回収ボックス

### ■これまで捨てられるか燃やされていたモノをリサイクル

当社は廃棄物問題に対して、革新的な解決策を創出している米国発の企業です。これまでリサイクルが難しいとされてきたモノをリサイクルするプログラムを提供しています。例えば、化粧品の使用済み容器やパウチタイプゼリー飲料の空き容器などを回収しています。

最近では、循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」も展開中です。ガラスなど繰り返し使用できるように設計された容器に入った製品を提供しており、「捨てるという概念を捨てよう！」という考えが、多くのパートナーから賛同を得ています。Loopは、2019年1月に米国とフランスで運営をスタートした後、2021年5月に日本で運営を開始し、現在3カ国で展開中です。

### ■横浜でマテリアルリサイクルを広げたいという想い

米国生まれで日本にルーツを持つ私は、1992年に初来日して以来、ビジネスで日米を行き来していました。「日本は綺麗な国なので、リサイクルは必要ないかもしれないと思いましたが、調べてみると、サーマルリサイクル(熱回収)が多いことが分かり、廃棄物を新たな資源として再利用するマテリアルリサイクルを増やしていきたい」と考えるようになりました。

テラサイクルジャパンが事業を始めた2014年から、私はゆかりのある横浜市にも関心を持ち、実際に本牧の最終処分場の見学もしました。2019年まで事業所は東京にありましたが、その間も横浜で事業を展開したいと考えていたのです。そして半ば横浜に拠点を移すのを諦めかけていた同年の夏に、地元関係者から

「オフィスが空いたので入居しないか」と誘いが来ました。そしてその年の12月、念願だった横浜に拠点を移しました。

2022年、森永製菓と連携し、横浜市役所内のセブン-イレブン2店舗でパウチタイプゼリー飲料の空き容器を回収するプログラムにも取り組んでいます。

そのほか、当社のリサイクルプログラムについて、横浜市から地元企業とのマッチングの機会を提供してもらいました。地元企業の方々にも、外資系企業である当社と仲良くしてもらえるので助かっています。日本の国際貿易はもともと、横浜を起点に始まった経緯があり、外資系企業にも開かれた土地柄だと感じています。

### ■「おくすりシート リサイクルプログラム」の実証実験も

昨年10月には、当社が第一三共ヘルスケアと連携し、使用済みのPTPシート(おくすりシート=錠剤の個別包装に使われている)を回収・リサイクルする実証事業を横浜市中区などで開始しました。このリサイクルプログラムは、市民や他の事業者のマテリアルリサイクルへの意識を高めることが期待できる、先駆的な取り組みです。おくすりシートのリサイクルについては、一生懸命パートナー探しを始めて、長い期間をかけて実現したものです。パートナーが見つかった後も、どこで実証を行うのが課題でしたが、横浜市のご協力もありようやく本プログラムの実現にこぎ着けました。

このように地元企業も外資を歓迎し、行政も外資系企業の活動の後押しに積極的な横浜市は、事業が展開しやすいと感じています。

(取材日：2023年3月)